

元気な女子学生たち

学校法人追手門学院 学院長 坂井 東洋男



大学入試志願者数の増加率(約45%)は日本一、くわえて入学手続き率が予想を大幅に超えたとあって、キャンパスは例年以上に賑わっている。心強い限りである。

追手門学院大学の最近の女子学生の活躍はめざましい。女子サッカーは参加1年目で見事に関西リーグ一部昇格を果たしたし、チアリーディングは世界大会で4位に入賞、日本初の快挙とのこと。また、女子ラグビーは新聞各紙でも取り上げられているように、西日本では最強。近く、東京に遠征し強豪の立正大学と一戦をまじえる。昨日たまたま藤尾政弘社長の茨木食堂でグループに遭遇した際、成果をあげてきますと豪語していた。その心意



気やよし。心意気なくしては何事もなしえない。ちなみに、茨木食堂では学生たちから挨拶された。さもなくば、試合を観戦したことはあるけれども、普段着姿の彼女たち

に気がつくのはむずかしい。歯医者への帰りかけ、愚妻と一つのソフトクリームを分けあっている姿に、「ラブラブですね」と。如何にも今様の軽口を叩かれた。

課外の諸活動でも女性の姿が目立っている。この傾向は、追手門学院に限ったものではなく、ある世代以下に共通している。大雑把な印象では、40歳代以下の傾向と言えまいか。一般論である。

男子学生は総じて優しい。元気を内に秘めていることを望みたいが、うつむき加減の姿が散見されるのが気にかかる。

例外はある。「今日も徹夜帰りです」と自活している学生もいる。眠くないのかと聞くと、午前の授業を受けてから寝ますと。頼もしい。学生時代には大言壮語するくらいの元気がほしい。謙虚さは怠惰の口実にもなりかねない。誤解を避けて、有言実行と言い換えてもいい。公言することで自分に発破をかける。本学客員教授でもある大畑大介氏は学生時代から有言実行。家でもそうであったようで、神戸製鋼時代、試合のあとで母と立ち話をした際、また大きな風呂敷を広げているんではありませんかと。

学生時代は大言壮語、社長になったら謙虚に。藤尾社長は出しやばらず、まことに謙虚な方である。

平成27年山桜会新年会のご報告



平成27年新年会実行委員長
今西 良介 (小103期)

日時 2015年1月25日(日) 場所 ウェスティンホテル大阪

「山桜会の新年会実行委員長をやってみないか？」記憶によればまだ夏真っ盛りの北浜。平泉会長が勤められる弁護士事務所に呼ばれた私は、その会議室にて、そうお誘いを受けました。正直言って、新年会に過去出たことがない私は、過去にどうテーマで、どう雰囲気なのか全くわからず、漠然とした問いに対し、すぐには答えられませんでした。しかし翌週、あらためて会長と昼食を共にさせていただいた際にこう言いました。

「世の中には、今回のような“お声がけ”を、本当はしてもらいたくて仕方ないのに、(声の)かからない人がたくさんいる。私は(お声がけを)いただいただけで、大変光栄に思

わなくてはならないと気持ちを改めました。正直いまは途方に暮れているが、いい機会と捉えて、なんとかやってみます」こんな想いで、新年会の委員長を、務めることになりました。



平泉会長

川原理事長

坂井学院長



谷川歩依さん



廣沢繁司さん



西田真由子さん



WAR-ED (ウオード)



岡本昭治さん 大阪締め

テーマは「Let it go」。邦訳は「好きにさせてよ、自由に言わせてよ」という語意と聞いて、これから100周年を迎える山桜会が、今後も開かれた場となるよう、命名しました。

当日は廣沢さんをはじめとする演奏者のみなさんや、小角さん・池田さんを含めたスタッフの方々、会計では松井さんや川口さん、何より細やかな気配りでフォローしてくださった乾さん、あと事務局やホテルも含めて、みなさんのおかげさまで、なんとか無事に終えることができました。

みなさんの笑顔に出会えた、素晴らしい新年会になりました。あらためて感謝申し上げます。



詳しくは山桜会オフィシャルホームページへ

<http://www.yamazakurakai.com/> 3